

## Mさんを悼む

僕より三つも若いのに

僕より先に逝ってしまった

決して短気ではなかったのに

何故か急いでしまったね

一緒に作った「三十周年誌」が

机の上で寂しそうに見える

昨日は表紙を今更のように眺め

意味もなくページを繰ってみた

何度書き直しても

納得が行かず

もう一度もう一度と

「庭園の歴史」を書き直していたあなたは  
達磨のように辛抱強い人だった

自治会や組合の活動で

「長」になっても「一係り」でも

黙々と「志」を貫こうとするあなたは

時には「人困らせな」頑固親父にもなった  
でも

僕は笑顔を絶やささない

静かで優しい頑固親父が好きだ

車椅子を運転する美しい奥さんに  
付き添いながら

少し後から黙って見守って歩くあなた

その時のあなたは

仏陀のように頼もしかった

秋の落ち葉が金色に輝いていたものだ

自衛隊の飛行機乗りだったあなた

その昔話を語る時のあなたの眼は

まるで少年のようだった

今はもう自由に雲をかいくぐって

空を飛びまわり

下界に小さく見える僕らを

見守っているのだろうか

「高橋さん、それはまずくないか」なんて

言いたそうな顔してるかもしれない

真つ白な雲の上に

真つ青な空に溶けて

ゆつくりとお休みください

この団地で知り合つて

本当に良かったと思う人が沢山いる

あなたもその一人だった

もし僕も天国に行けるようなら

再会して乾杯しましょう

頑固親父のあなたと酔っぱらい親父の僕の

雲海の中での

どでかい乾杯を！

(2008.12.7)